

報知 籠屋新聞

報知 籠屋新聞社
代官 鴨川市
TEL 0470-92-9912
Fax 0470-92-9986

房総かご屋の シラフイヌネ

尚友 稲垣

タスマニアに行ってきた。オーストラリアの南に浮かぶ島である。北海道の広さがあるが、人口は50万人ほど。道人口の10分の1である。
その島に4カ月弱いた。「何をしに行ったのか?」と聞かれれば、「何かを探しに行った」と答える。では、その「何か」に当てが合ったかと言えば、漠としたものはあった。
私は竹細工をなりたいと思っているが、その仕事に力が入らなくなって数年が過ぎる。中だるみにしては長すぎる。因は竹にあるのではなく、それを取り巻く世の中のカラクリにあるようだ。作品をつくり、それを換金して子育てをして、というカラクリのことである。セイカツと言いつてもいいだろう。
その初めは竹細工がおも

しるく始めた。私の手になる青々とした竹かごを手にした人が、「美しい。未だものだ」とほめてくれたときはうれしかった。それが現金収入になり、セイカツを支えていったのだから、うれしきもひとしおである。

セイカツ費は次第に肥大化している、私は、よ多くの収入を期待して生産に動んだ。が、つまるところ、このイタチゴッコは、私から仕事への欲をこそぎ取ってしまったのだ。身の丈以上の消費生活をどこかで強いられていた気がする。換

身の丈に合う暮らしを探しに



金行為が元凶とは思われないが、他人が、あるいは自分が喜べる範囲内の仕事こそ重要なのだ。
私は先住民のアボリジニに会いたくて、オーストラリアに行った。ヨーロッパ移民の目から見れば、裸同然の暮らしぶりである。最小限の手荷物を持って、

広い大地を探索・狩猟しながら移動していく。彼らが体現する「シンプル・イス・ベスト」(簡素こそ最高)の考えが、もしかしたら私を探しに出かけた「何か」なのかもしれない。

友人が近くで米づくりを始めた。本年で3回目の田植えが晩春の房総で行われた。彼の特色は、古代米といわれる赤米と黒米をつくっていることだ。モチ米に近く、おいしいのだ。それともう一つの特色は、農作業を極めることで、自然が復元されるという姿勢である。
この8月から向こう1年

当日は田楽よろしく、アフリカの太鼓のリズムに乗っての作業だった。田の脇鹿村である。そこは南アルプスのふもとに村で、天竜川の源流地域でもある。コンクリートで覆われた河川を元のあるがままの姿に戻せないか、という願いが込められている。トンボやタニシやドジョウを呼び戻す手助けになればいいが、
みんなで山に入って材料を集め、各自が自用の用具をつくることから始める。その採集行為が山を生きかすことになればと思う。ちょうど、古い竹を間伐する中で、竹林に活力が出てくるように。われわれのナタのひと振りもそうありたい。

ネットワーキングの作業はドジョウの養殖池づくりから始められ、年間を通しての耕作、播種、刈り入れが行われる。同時にオーストラリア先住民であるアボリジニーの絵画展、コンサート、映画会などが行われる予定だ。
そして、私はかご編みの

ナタのひと振りで自然活性化

房総かご屋の シラフイヌネ

房総かご屋の シラネイヌネト

◆ 3 ◆

先日、わが家で「うんたん」を打ってかごを編む会を開いた。みんなでかご編みの材料を山に入って採りに行く前に、うんたんの下地づくりをするようになった。

廃材利用し環境にやさしく

先日、わが家で「うんたん」を打ってかごを編む会を開いた。みんなでかご編みの材料を山に入って採りに行く前に、うんたんの下地づくりをするようになった。

民間の解体をこれまで多く手がけてきた。屋根の骨組みは竹でつくられていることが多い。その竹はいろいろかまどの油煙を吸って、あめ色に変色している。その跡地に木造住宅ができるという。人と環境にやさしい

房総かご屋の シラネイヌネト

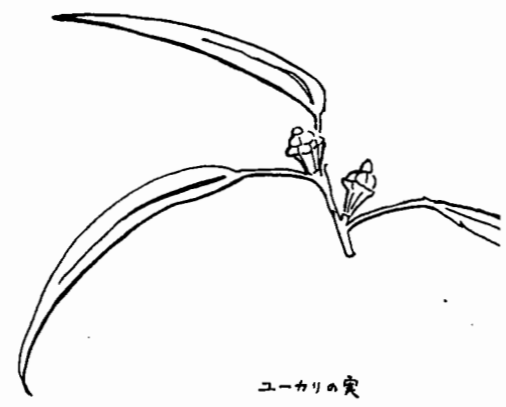
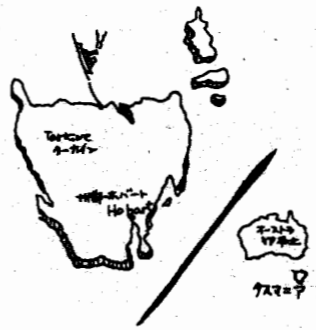
◆ 4 ◆

オーストラリアの南に浮かぶタスマニア島は、世界で有数の温帯雨林を保有している。特に島の北西部にあるターカインの森は、40万坪の広さがあるという。

雨林破壊防止へ再生紙を

オーストラリアの南に浮かぶタスマニア島は、世界で有数の温帯雨林を保有している。特に島の北西部にあるターカインの森は、40万坪の広さがあるという。

その森に道が奥へ奥へと延びている。そして大型トレーラーがユーカリの木を搬出している。なかには、人間5人が両手を広げてやっと抱えられるような、樹齢数百年の巨木もある。近くには南半球最大の木材チップ工場が建てられていて、大樹一本が3秒でチップ材になってしまうのだ。年間120万トンの早さ



死の山であった。大木がいたるところに倒れたままになっている。チップ材に過ぎない木まで倒してしまうのだ。放置された木は、上空から投下されるナーム弾で焼き払われる。ちょうど小雨降る日だったので、焼

房総かご屋の シラネイヌネト

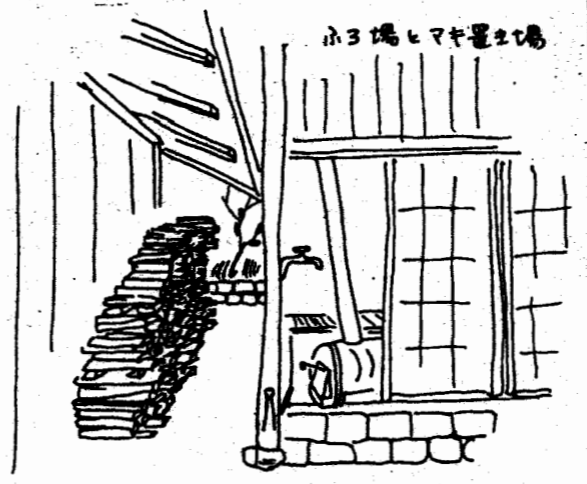
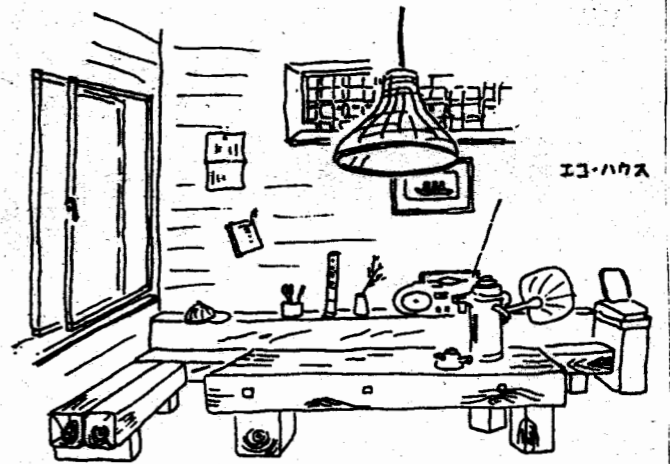
◆ 6 ◆

友人が民宿を始めるといので、私は祝いの品をつくりに行った。場所は鹿児島県十島村平島。以前に私が住んでいた東シナ海に浮かぶ人口90人の島である。

もどれ深く静かな時の流れ

友人が民宿を始めるといので、私は祝いの品をつくりに行った。場所は鹿児島県十島村平島。以前に私が住んでいた東シナ海に浮かぶ人口90人の島である。

島で手に入る材料で何をしようか、あれこれ迷った末に出来上がったものは、浜で拾ってきた流木を土台に利用したフロアライトだった。シェードの部分は枯れた竹ササを密に林立させ、それで光源



3カ月半のタスマニア滞在から帰ってきたの第一の仕事はマキの運びであった。おみやげである。わが家の後背地は山になっていて、私はよくその林道を木を拾ってきてはマキにしていた。が、この何年かは、車で10分のところにある材木屋に行く。

「廃材」で、ふる場と トイレ改築

私は常連だから、何のたに来たのかを先方はすぐ飲み込んでくれる。まず、空いたトラックを探して私に貸してくれ、次にフォークリフトを使って、2トンの束を運搬して家に持ち帰る。一束1200円



私はそれらのカスを、種類別、寸法別に分けて束ねていく。2トンの材木を手になら、マキに回す分はいくらもない。それがため、軒先を利用してつくられた私の材木置き場の山は、ますます高くなっていくのだ。

メモらん デス

房総かご屋の ミラクルな器

◆ 7 ◆

て張り合わせる。また、急須の口が欠けると、竹の筒を利用して、新たな口をつくってしまふ。茶わんが大きく欠けたら、ヤスリで削る。時には新たな欠けを別

の箇所に入れて、バランスを考へる。欠けは、あたかも初めから計算されていたかのように。そうなる、部品を組み立てる時には、くきも打った。針金も使った。そして、腐ったり、破

を、しめたと思つたのだ。無作為の中の作為、これはサキ師の極意かもしれない。いま私は、身の回りの品々の修復屋をやりたいと思つている。

私は器大屋である。以前に茨城県の笠間市にいたが、そこは焼き物の産地で、多くの焼き物屋と友人になつた。彼らが手みやげに持ってきてくれた器で、わが家の食器棚はいっぱいになつたのだ。

その後、食器のいくつかは破損し、その数は減つた。が、著しい減少ではない。破損した器は、可能な限り補修して再利用しているか



修復カワフ (漏水はせん)

親しみ増す修復食器の再利用

しいものとなる。

先日、かよぶ農家の解体に行つた。屋根の骨組みは竹で出来ている。その竹を賣りに行つたのだ。屋根裏に入つてみた。古い農具がごみとして散らしてある。その中にススにまみれた木組みがあった。元は背負い子であつたらしく、部分がバラバラになつてゐた。友人が、「なんだ、ただの古い背負い子じゃないか」と言つた時、私は「しめた」と思つた。見る側に作為を感じさせなかつたこと

損した箇所には新しい木片も加えた。使つた材料は、すべて本体にマッチした古さのものを選んだ。サビの入つたくぎ、古い針金、ススで黒くなつた木など。

友人が、「なんだ、ただの古い背負い子じゃないか」と言つた時、私は「しめた」と思つた。見る側に作為を感じさせなかつたこと



ニモXモらんデウ

房総かご屋の シシラズや茶箱

◆ 8 ◆

別府から封書が届いた。知人が主宰する竹工房からだった。その中に、県の技術センターへの質問状とその回答書とが同封してあった。

知人の公害への心くばりに感心

この房総では、竹細工は最早、産業とは言えなくなっている。年金で生活を支え、竹細工からの揚がりは小遣い銭と見切りをつけている人たちがほとんどである。

が何人も健在らしい。つくり手は、その業者から油を抜いた後のさらし竹を入手できるので、油抜き工程を省くことができる。質問状の内容のひとつ

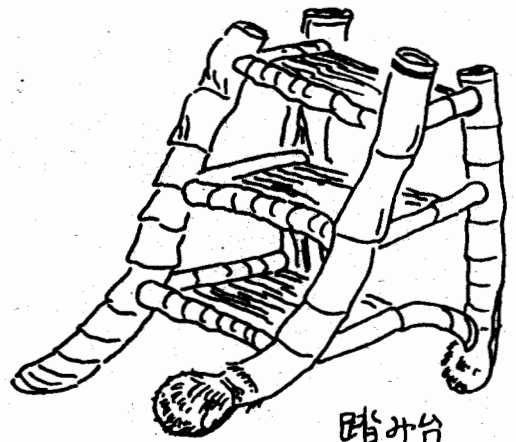
に、この油抜きの工程で出る廃液が河川を汚してはいないか、という問いが入っていた。私の場合、油抜きは木灰でやる。タワシに付けて水とともに竹皮を強くこすると、内側からドロとした液が出てくる。それを水洗いして、あとは干すだけだ。

別府ではカセイソーダの水溶液で20分ほど煮沸する。その廃液を質問者は心配している。現在のところ、確答は出されていない。私にはこの問いは新鮮で

あった。竹の仕事が公害の元凶になる可能性など、考えてもみなかった。この便りを目にした後、私は何冊かの竹の本を開いてみた。あった。公害の元凶であったのだ。竹を化学染料で着色する場合である。伝統工芸展に出品されている花かごのたぐいには、こ

の手の竹を使ったものが多いのを思い出した。適宜に古色をたたえている。より古く見せんがために、ホコリ入れなる工程も用意されている。天然素材をボウ

トクするのも喜ばしい、と力を入れたくなる。こうした作品が公害の元凶であることを、せめて見る人たちは知っておいてほしい。これは細工以前の問題である。



踏み台

房総かご屋の

シシ屋の

◆ 9 ◆

私には3人の子供がい
る。22歳と20歳、17歳であ
る。いま3人は家にはない。
上の子は栃木県の実業館で
アルバイトをしている。次
の子は南米のウルグアイで
サッカーをやっている。3
番目は長野県で高野野菜つ
くりの手伝いをしてる。

子供3人：「タビ先」も良し

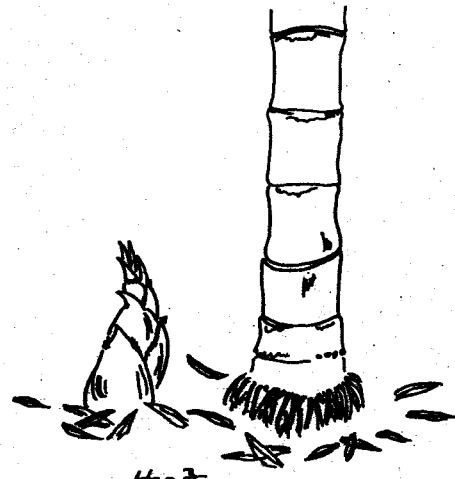
私には3人の子供がい
る。22歳と20歳、17歳であ
る。いま3人は家にはない。
上の子は栃木県の実業館で
アルバイトをしている。次
の子は南米のウルグアイで
サッカーをやっている。3
番目は長野県で高野野菜つ
くりの手伝いをしてる。

融通し合っている。長野か
らは高野野菜が送られてく
る。代わって「青春18切符」
の入手を頼んで来た。ウル
グアイには、日本の食品や
サッカーの雑誌を送ってあ
げる、などだ。

私は3人がタビ先にある
ことを良しとしている。同
時に、帰ってくるだろうこ
とも予測がつく。完全に羽
ばたくには、まだ予備飛行
を何回か繰り返す必要があ
るものと思う。

要するに、タビに出よう
が戻ってこようが、自分
があってもいい。が、目く

で判断する分には、いかな
る行動パターン、軌跡もあ
っていい。少しは家に落ち
着いて親の面倒を見ろ、な
どどこちちは考えていな
い。私も彼らが動くと同じ
ように動きたらう。先にオ
ーストラリアに3カ月余も
行って、留守をしていたの
じう立てて否定してはいけ
ない。家族のあり方の多様
性を認めることは、とりも
なほまず、豊かな社会をつ
くる第一歩だからである。
(竹細工師 絵も)



竹の子

房総かご屋の

◆ 10 ◆

私は先に修復屋のてこた
触れた。割れた茶わんや壊
れた背負い子を自分流に修
復し、再び命をよみがえら
せる仕事の紹介、暮らしの展
示のことである。

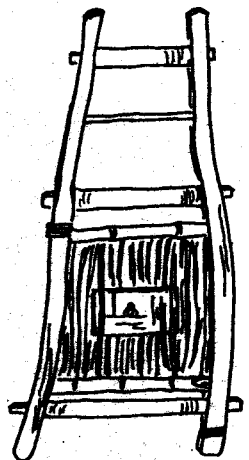
これは決して骨ざり展で
はない。確かに材料として
古いものを使う。が、同時
に新しいものでも、時に補
わないのだ。要は美しい
と、つくり手が思えればい

い。また、一度は廃棄処分
にあったものに再び目の
を見させようとする点で
はリサイクル店に似てい
る。遺物のほごみを素材の
ひとつとして使うという点
である。

これまで、このシリ
近郊都市で拾ったごみであ
って、一度は廃棄処分
にあったものに再び目の
を見させようとする点で
はリサイクル店に似てい
る。遺物のほごみを素材の
ひとつとして使うという点
である。

修復すればゴミの山も宝の山

スで何回かごみのことを取
り上げた。材木屋から買っ
て暮らしているのだ。換言
すれば、日常が修復屋でも
骨組みである竹、それは長
年のいろいろ、かまどの油煙



縁面椅子

痴報籠屋新
聞のお申込み
は左記窓口で
購読料 無料
(要切手代)
鴨川市代六三三
痴報籠屋新聞社

でいふされてあめ色の光沢
を放つが、それは、家の建
て替えてよく出るごみ、産
業廃棄物といわれる嫌われ
モノである。私はそれを拾
ってきてかごを編み、家具
をつくりて市販している。
流水を拾ってくるのも同じ
ことである。

みなさんも一度、身近
に捨ててあるごみを疑っ
てみていただきたい。ごみ
はせい肉をこそげ落とし
た後の姿であり、それは美
しい。

これから先も私はごみあ
さりをやめないだろう。私
にとつて、ごみの山は、宝
の山、でもある。